

国内・海外・金融経済データ

1. 国内経済指標

【ご注意】

本資料は情報の提供を目的としており、投資勧誘を目的としたものではありません。投資判断の決定につきましては、お客様ご自身の判断でなされますようお願いいたします。

また、文中の情報は信頼できると思われる各種データに基づいて作成しておりますが、商工中金はその完全性・正確性を保証するものではありません。

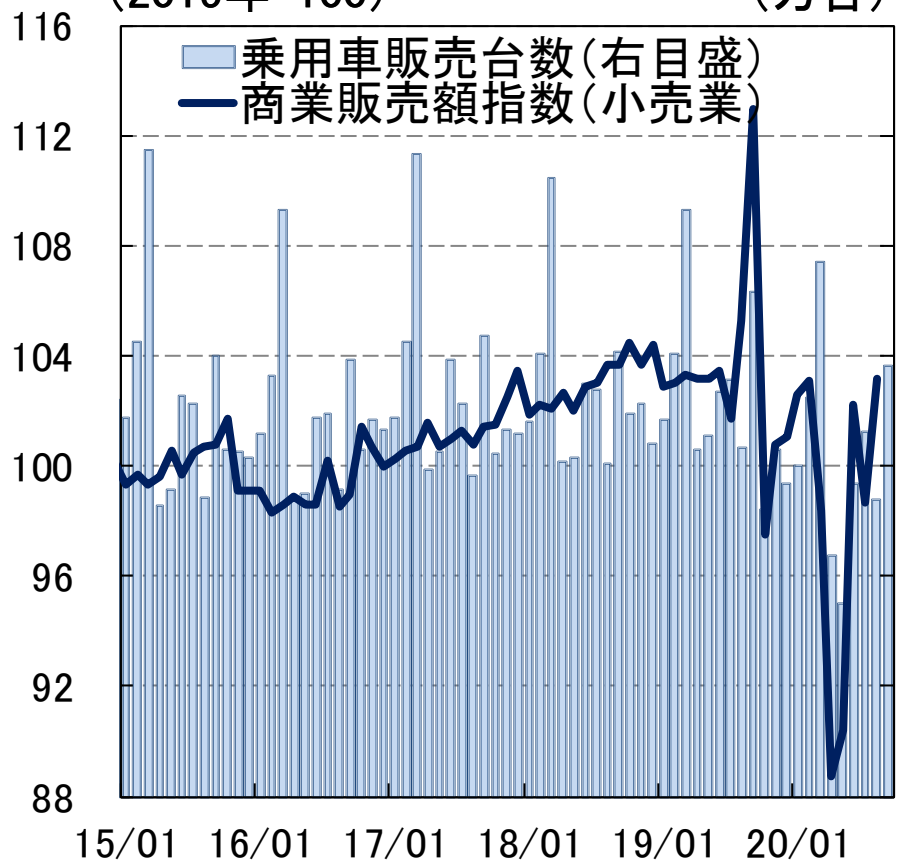
※2020年10月2日時点のデータをもとに作成

個人消費は、一部に足踏みもみられるが持ち直している

商業販売額、乗用車販売台数

(2015年=100)

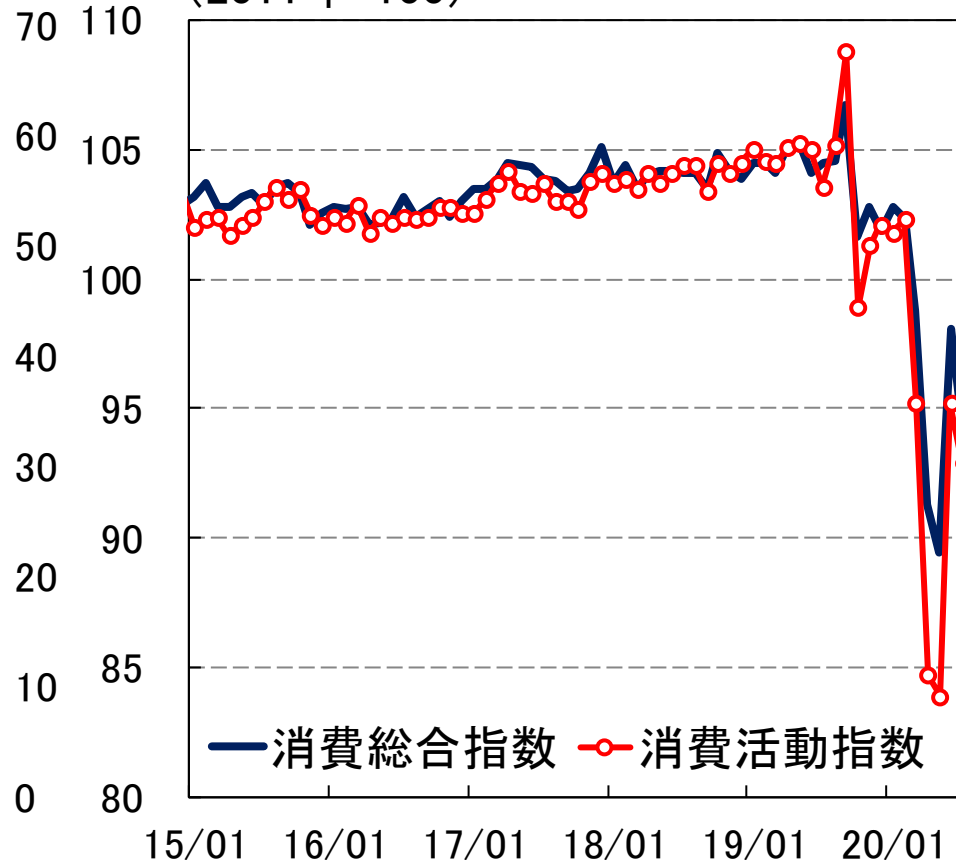
(万台)



(注) 商業販売額指数は名目、季節調整値。
(資料) 経済産業省「商業動態統計」、日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会

消費総合指数と消費活動指数

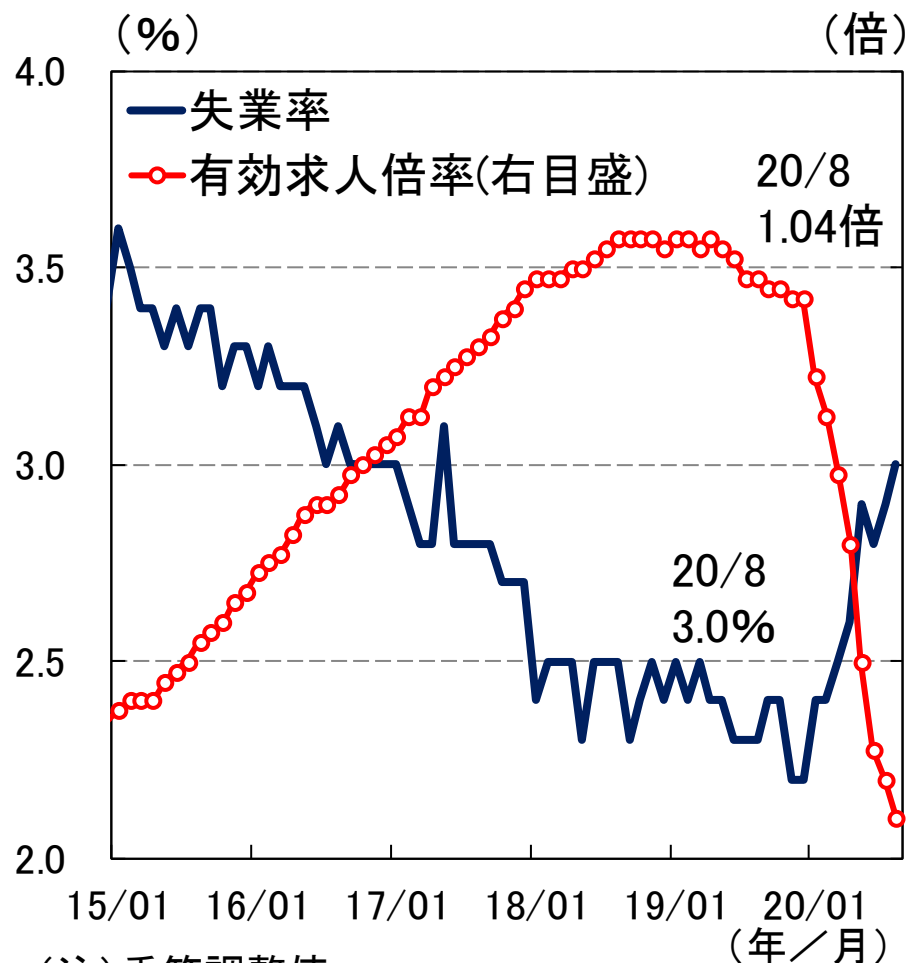
(2011年=100)



(注) 実質、季節調整値。
消費活動指数は、旅行収支調整済。
(資料) 内閣府「消費総合指数」、日本銀行「消費活動指数」

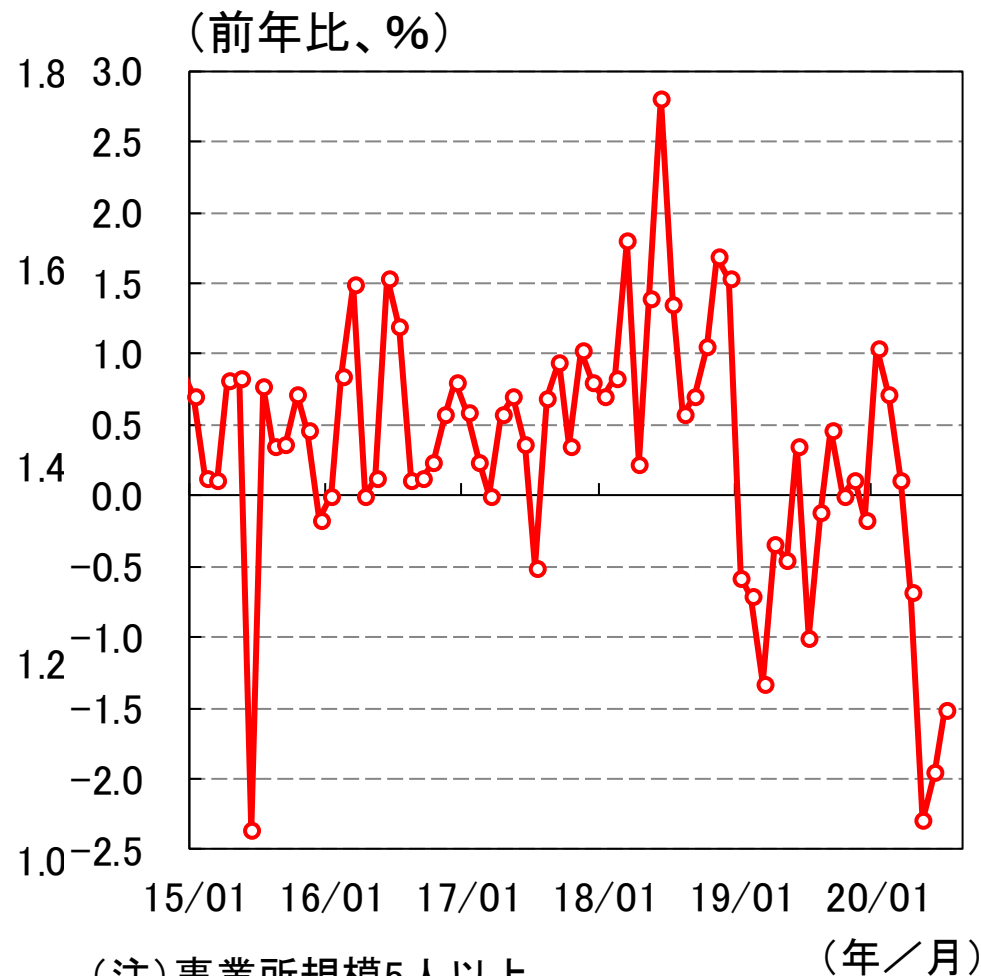
雇用環境は悪化傾向にある一方、賃金は下げ止まりの兆し

完全失業率と有効求人倍率



(注) 季節調整値。
(資料) 総務省「労働力調査」、厚生労働省「一般職業紹介状況」

現金給与総額

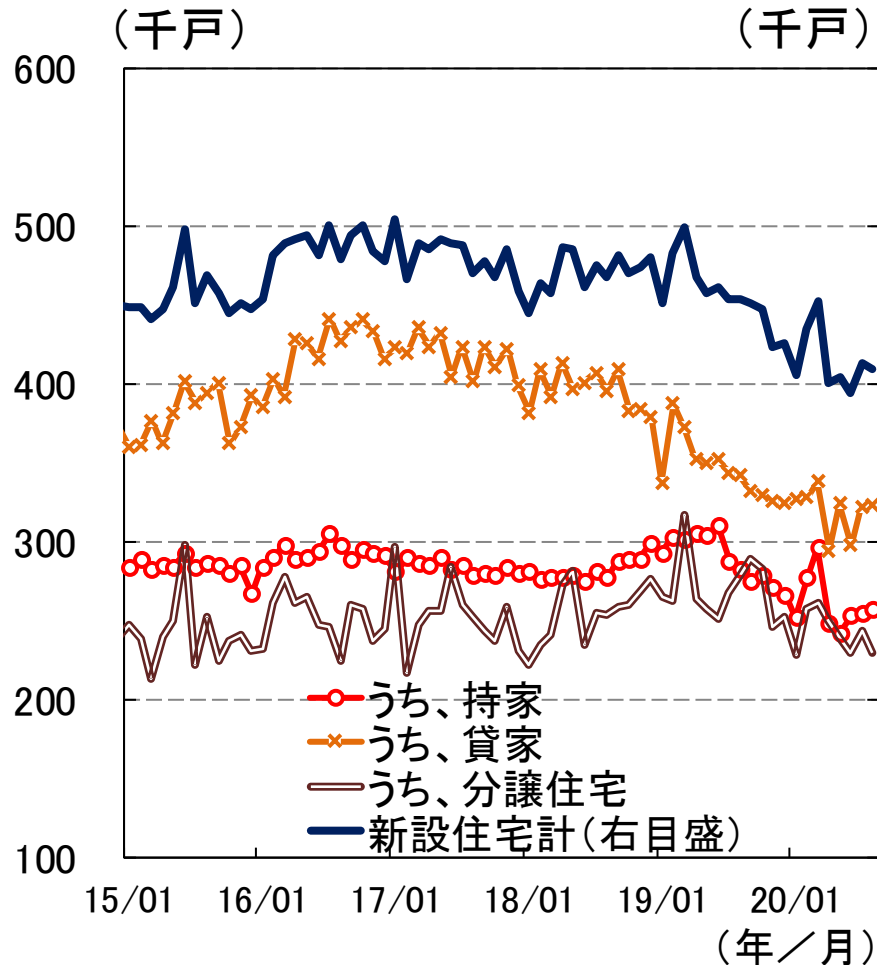


(注) 事業所規模5人以上。
(資料) 厚生労働省「毎月勤労統計」

国内経済 住宅投資

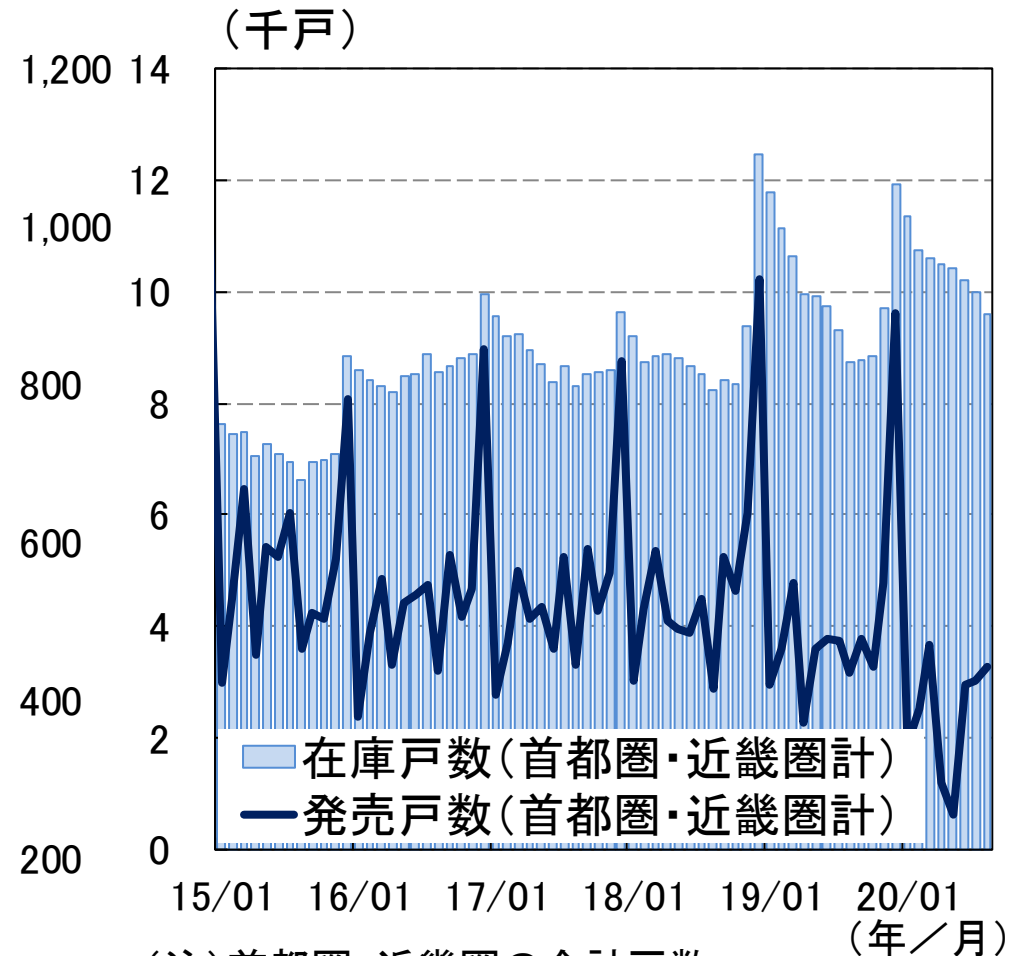
住宅投資は弱含んでいる

新設住宅着工戸数



(注) 季節調整値の年率換算。
(資料) 国土交通省「建築着工統計」

マンション発売戸数と在庫戸数



(注) 首都圏・近畿圏の合計戸数。
(資料) 不動産経済研究所「首都圏、近畿圏のマンション市場動向」

国内経済 設備投資

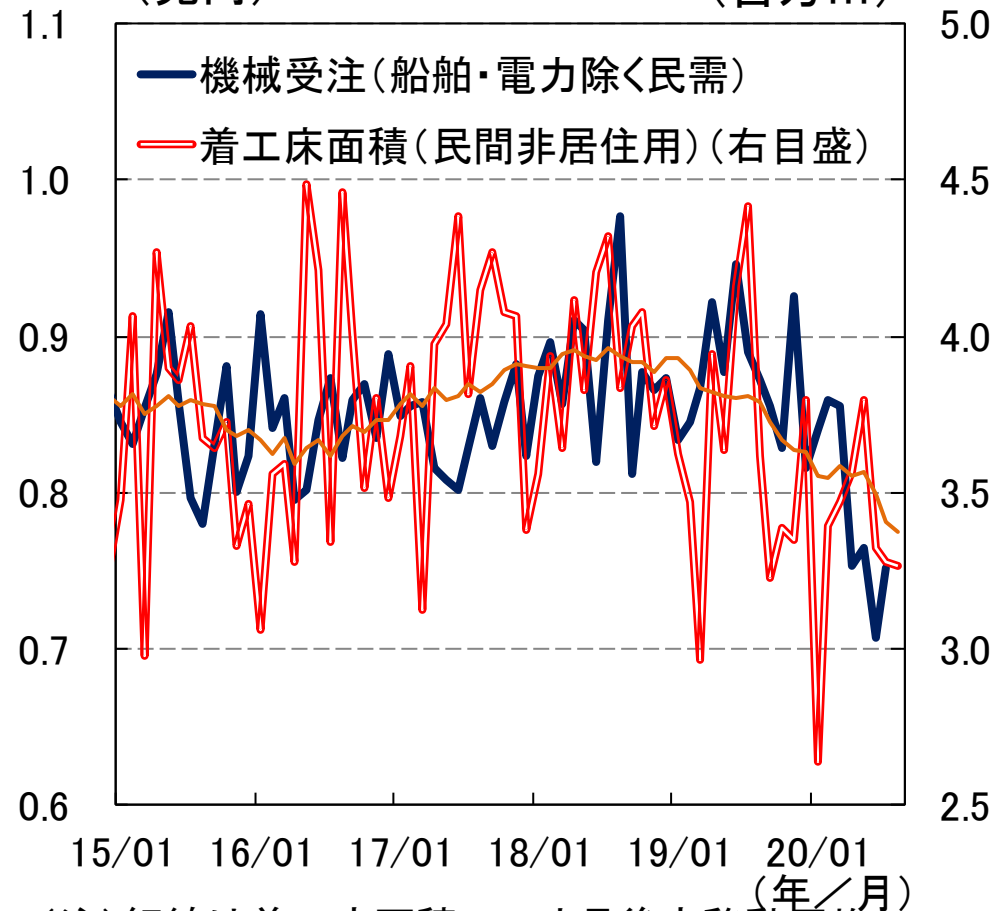
設備投資は減少している

資本財出荷指数(輸送機械工業を除く)
(2015年=100)



(注) 季節調整値。
(資料) 経済産業省「鉱工業指数統計」

機械受注額と建築物着工床面積
(兆円) (百万㎡)

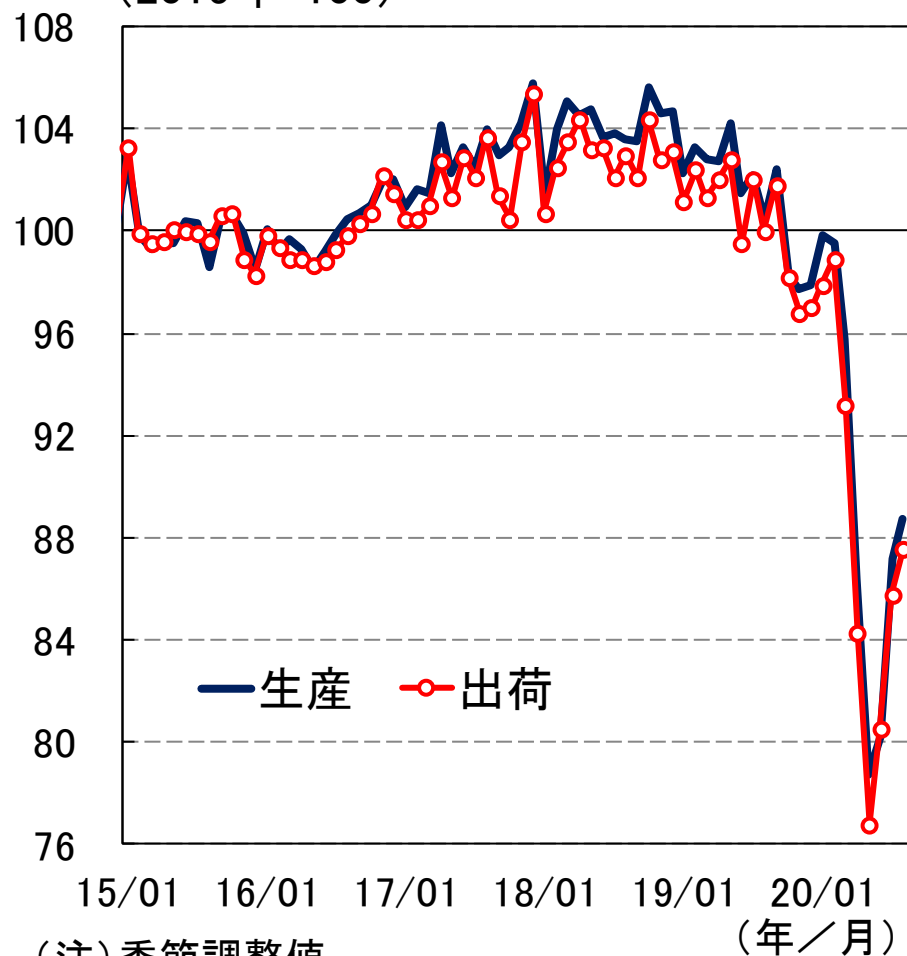


(注) 細線は着工床面積の12カ月後方移動平均。
(資料) 内閣府「機械受注統計」、国土交通省「建築着工統計」

生産は、足元では持ち直しの動きがみられる

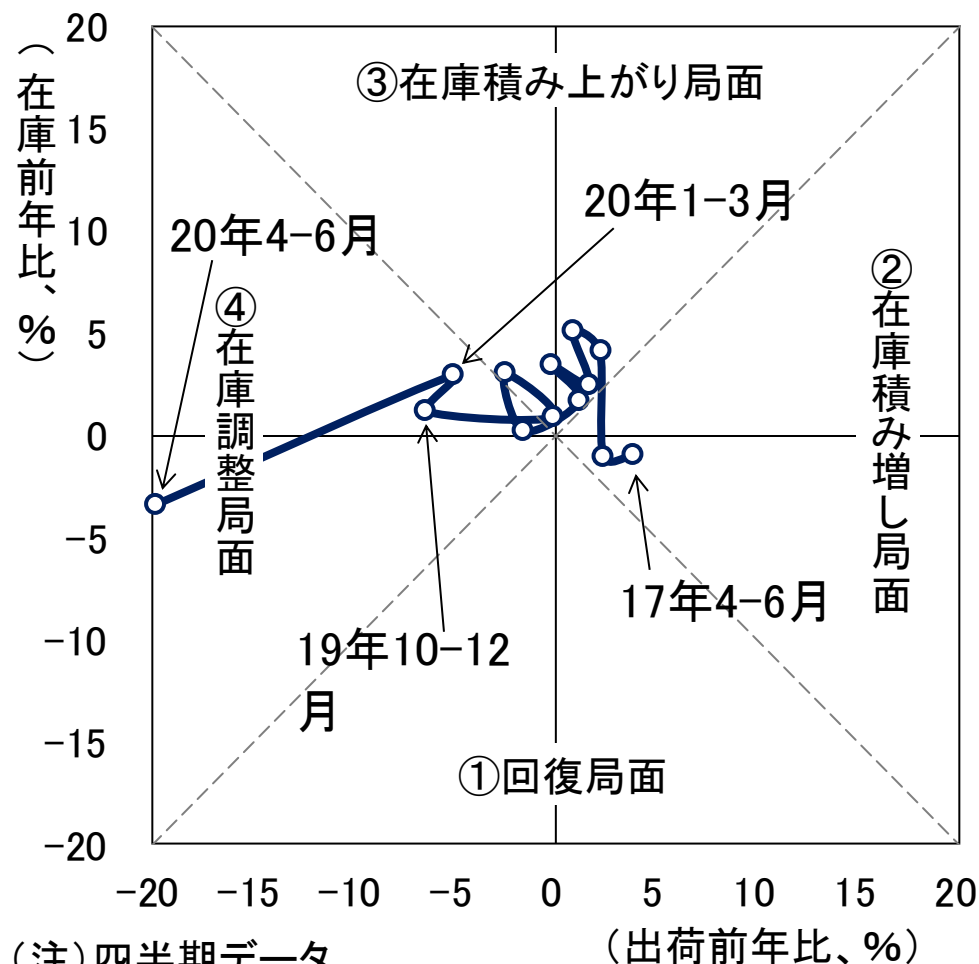
生産・出荷指数

(2015年=100)



(注) 季節調整値。
(資料) 経済産業省「鉱工業指数」

在庫循環図(鉱工業全体)

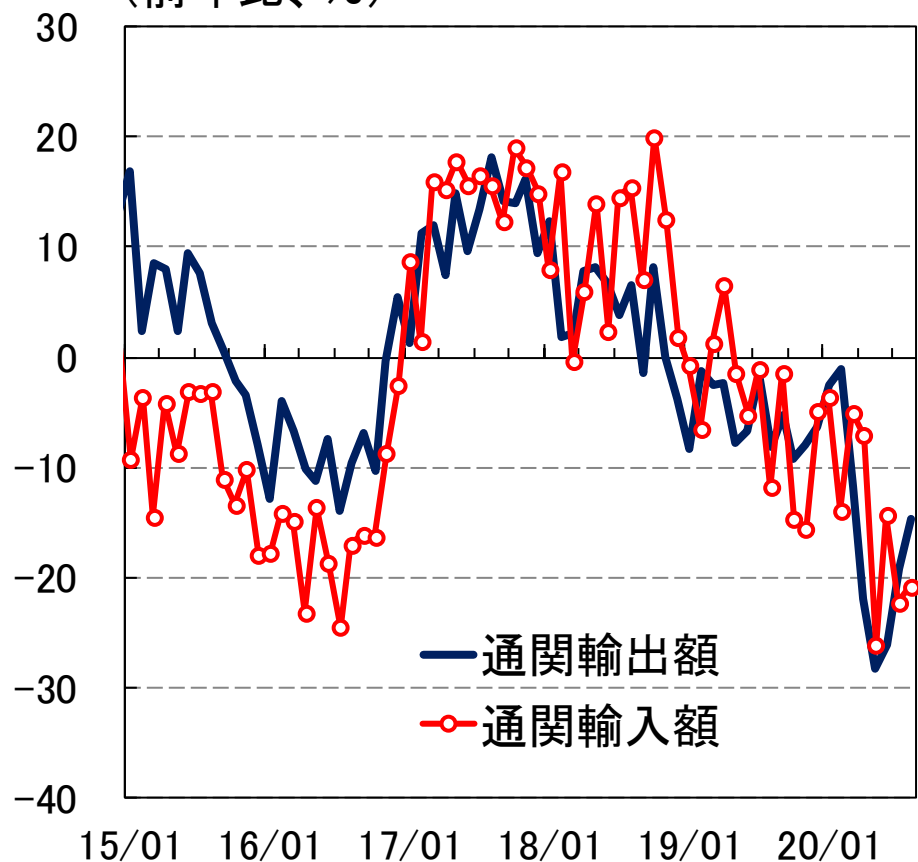


(注) 四半期データ。
(資料) 同左

輸出は、持ち直しの動きがみられる

輸出入額(名目)

(前年比、%)

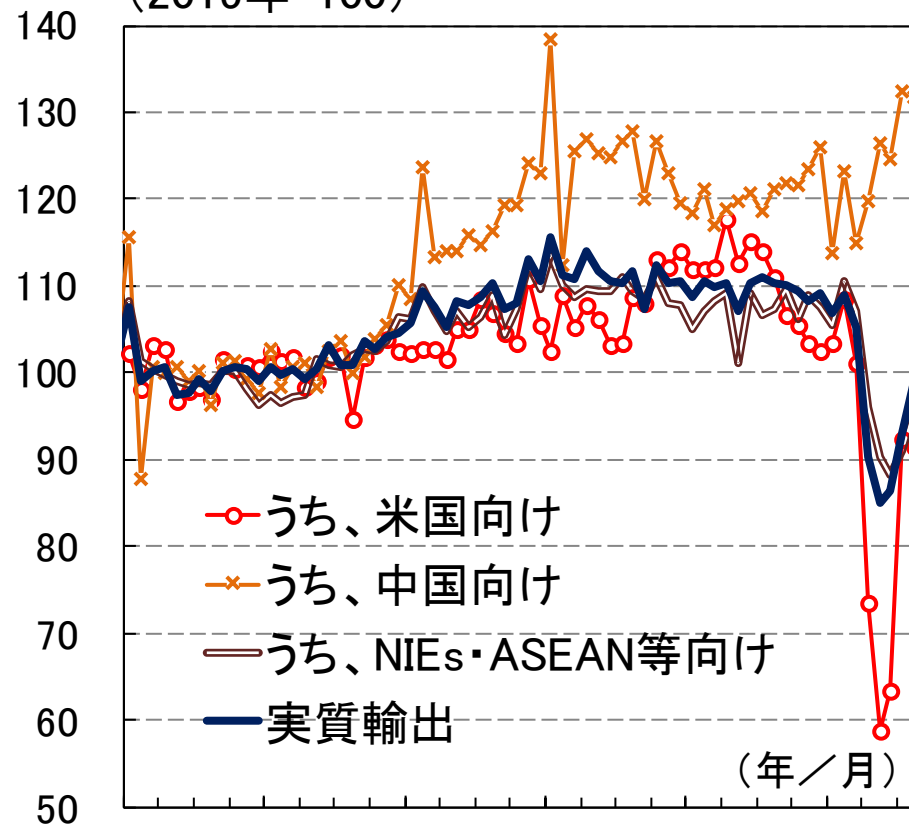


(資料)財務省「貿易統計」

(年/月)

実質輸出

(2015年=100)

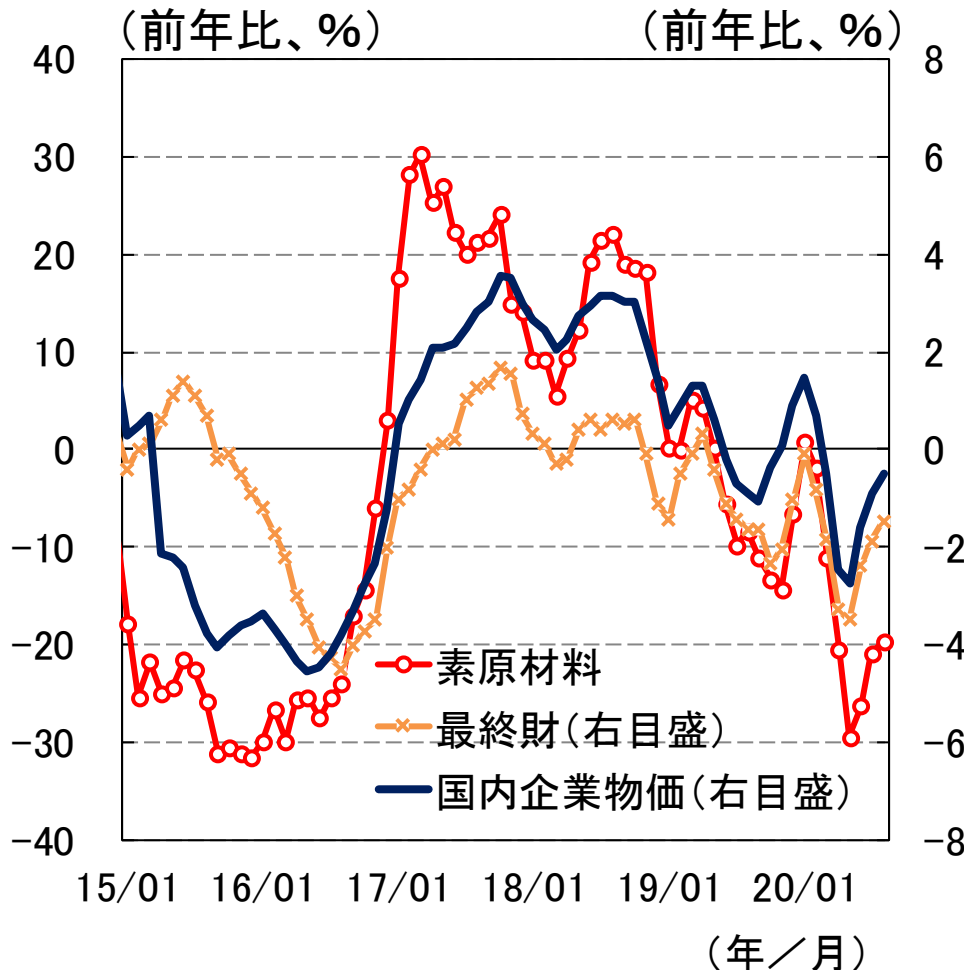


(注)実質、季節調整値。NIEs・ASEAN等向けは、インド・バングラデシュなどを含む。
(資料)日本銀行「実質輸出入の動向」

国内経済 物価

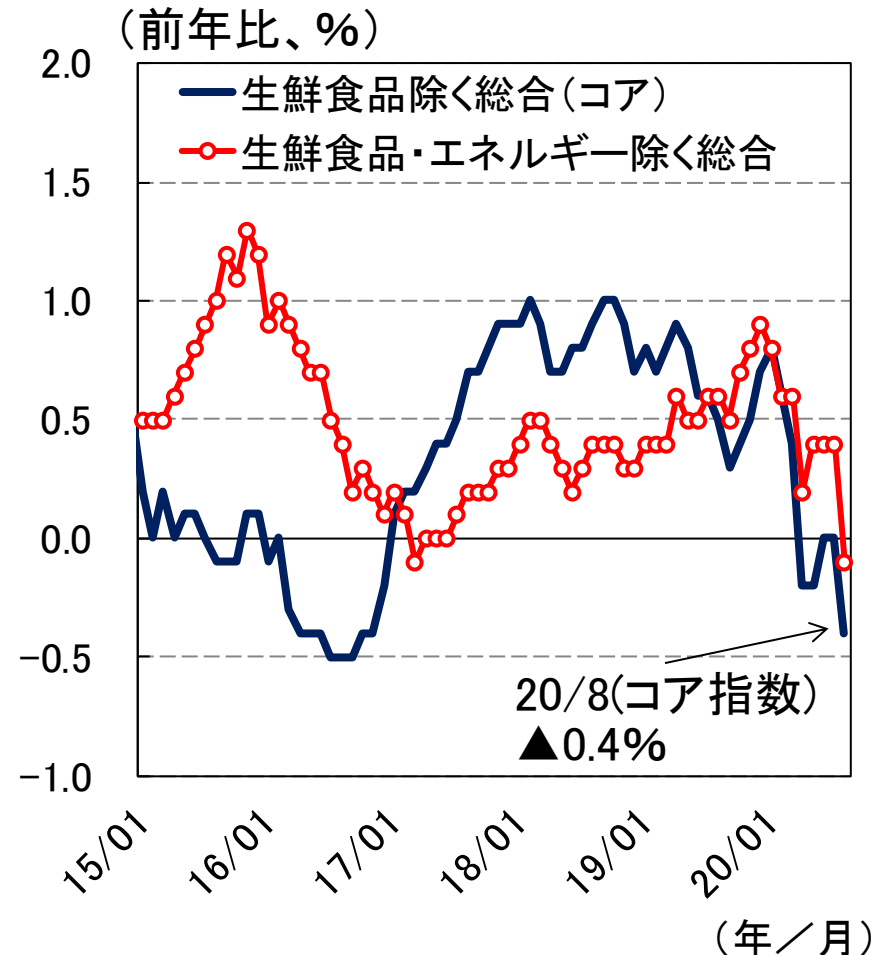
企業物価は持ち直しつつある一方で、消費者物価は弱い動きがみられる

企業物価指数



(注)素原材料、最終財は輸入品を含む。
(資料)日本銀行「企業物価指数」

消費者物価指数



(資料)総務省「消費者物価指数」、日本銀行



国内・海外・金融経済データ

2. 海外経済・金融関連データ

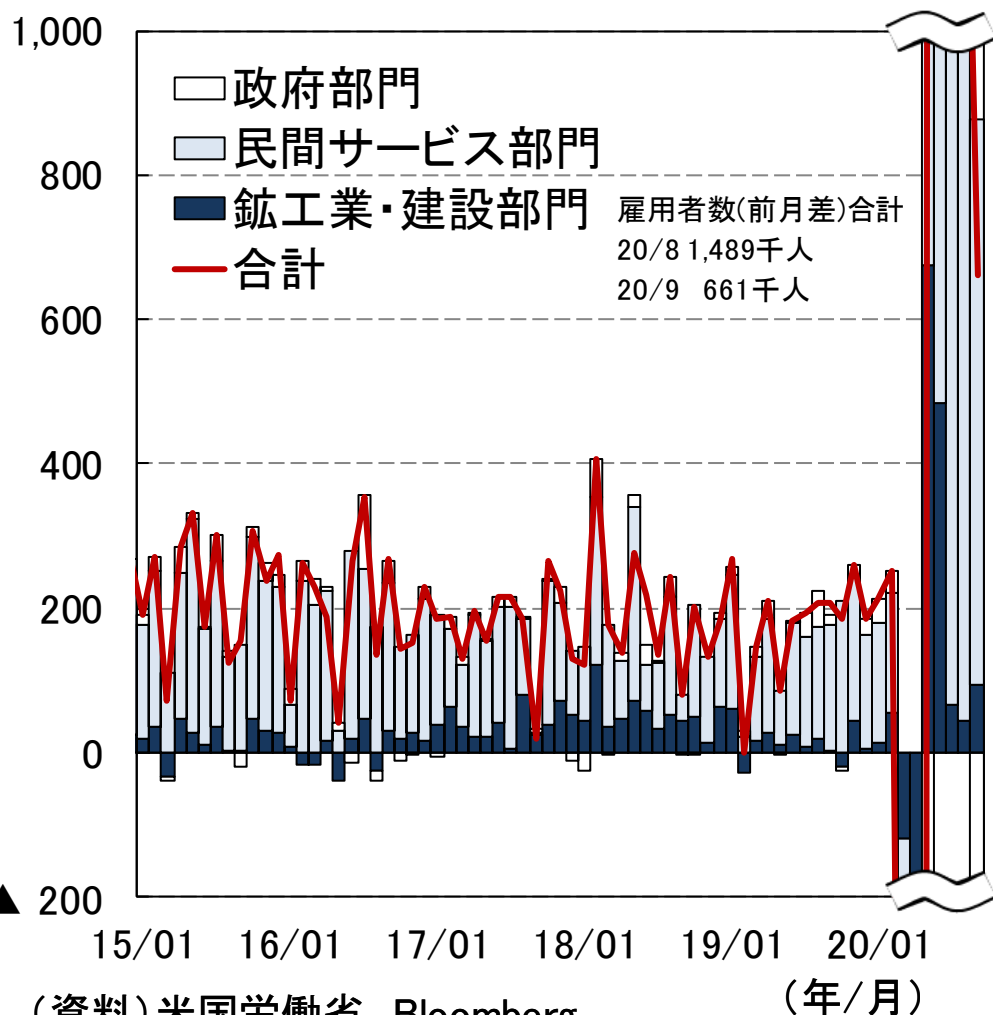
【ご注意】

本資料は情報の提供を目的としており、投資勧誘を目的としたものではありません。投資判断の決定につきましては、お客様ご自身の判断でなされますようお願いいたします。

また、文中の情報は信頼できるとされる各種データに基づいて作成しておりますが、商工中金はその完全性・正確性を保証するものではありません。

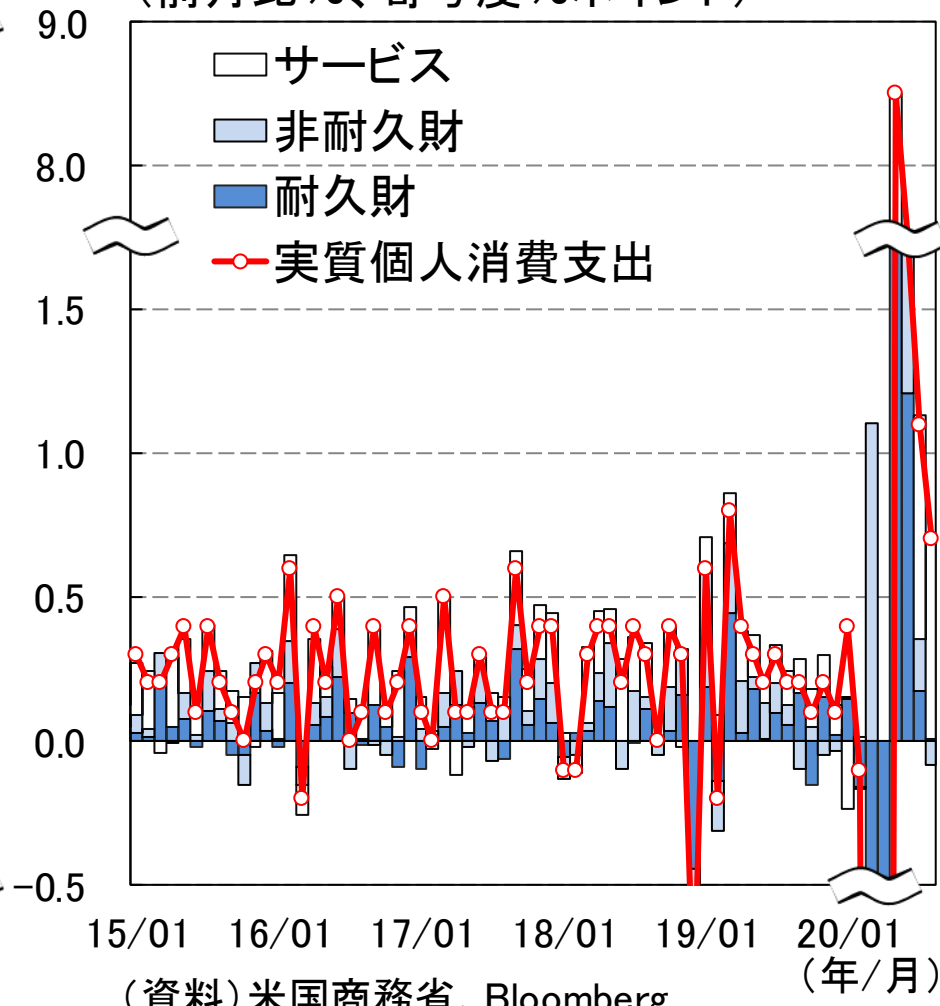
雇用者数・個人消費ともに持ち直している。但し感染症第二波の懸念から先行きは依然不透明

(千人) 非農業部門雇用者数(前月差)



(資料) 米国労働省、Bloomberg

実質個人消費支出(前月比)
(前月比%、寄与度%ポイント)

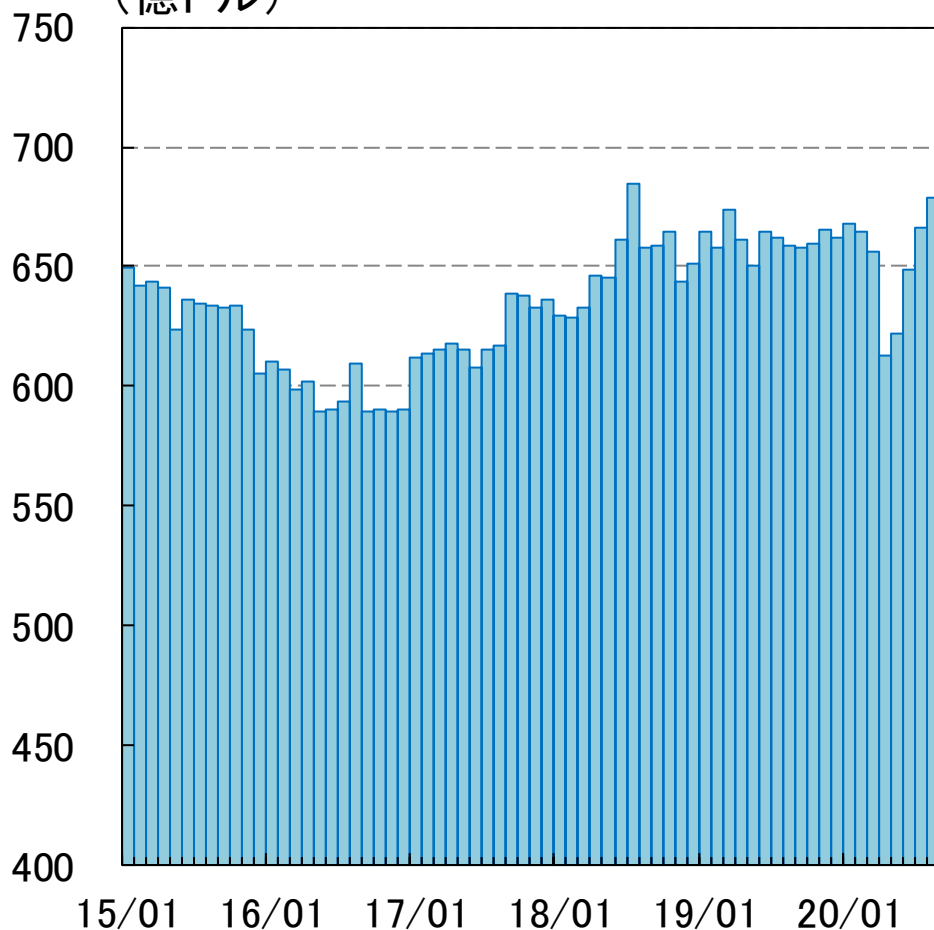


(資料) 米国商務省、Bloomberg

資本財受注・生産ともに持ち直している。景況感も回復基調にあるものの、感染症第二波の懸念から先行きは不透明

非国防資本財(除く航空機)受注

(億ドル)



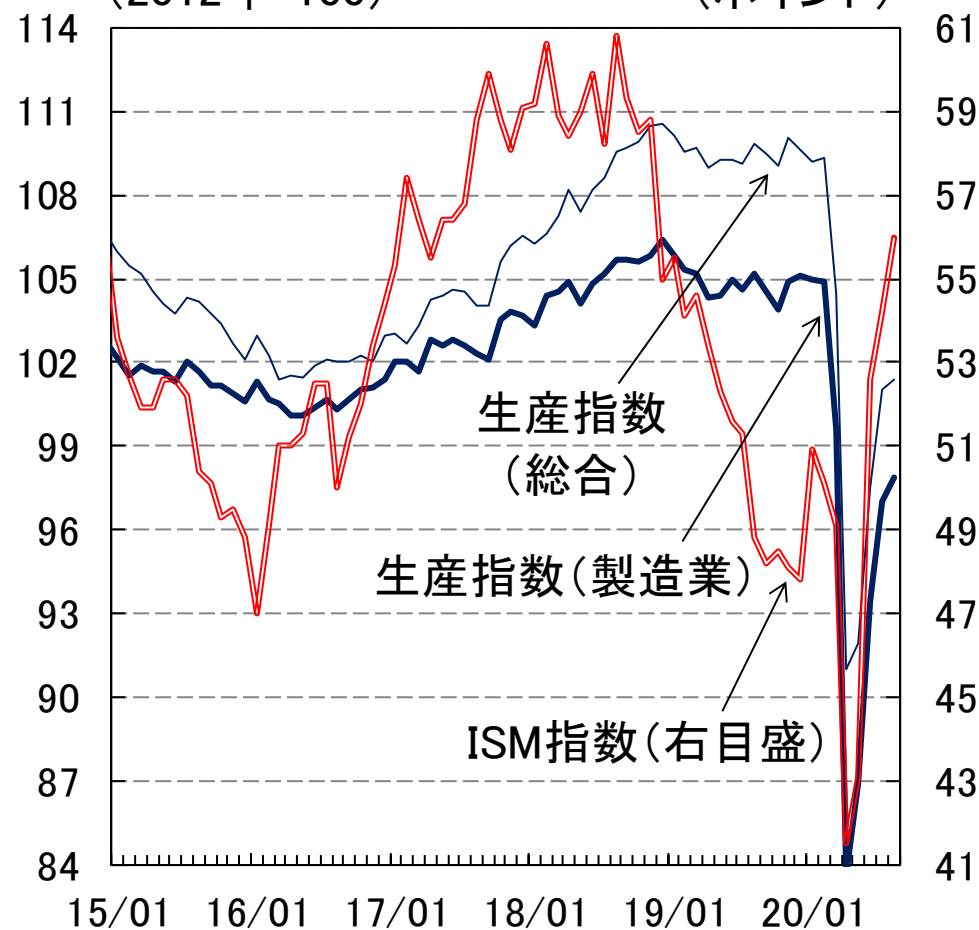
(資料) 米国商務省、Bloomberg

(年/月)

生産指数とISM指数

(2012年=100)

(ポイント)



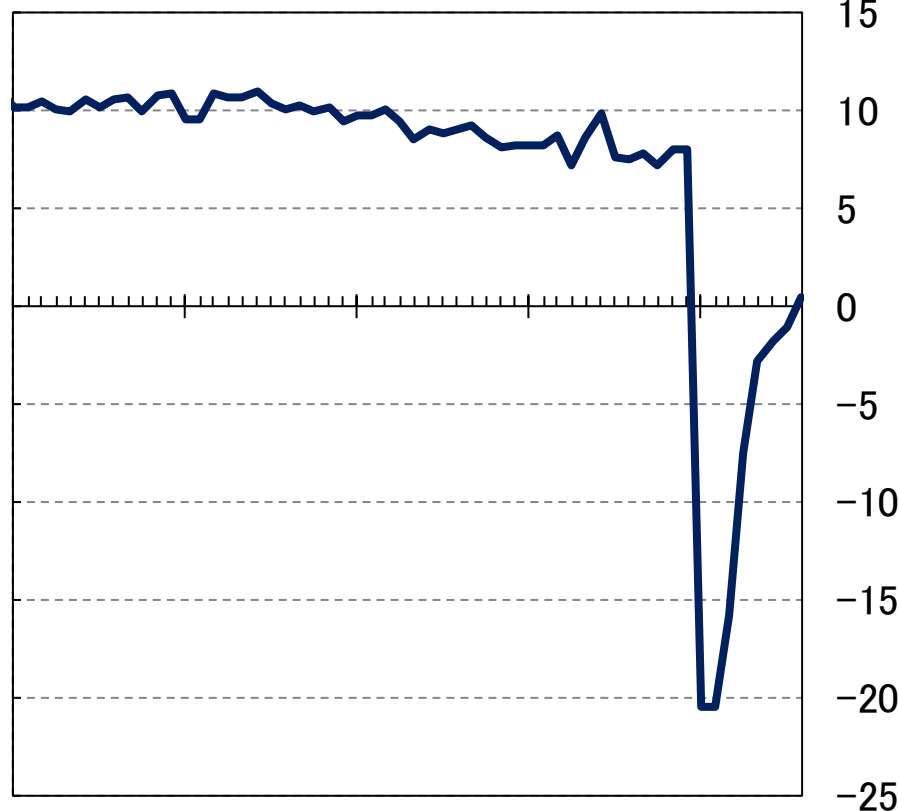
(資料) FRB、ISM、Bloomberg

(年/月)

消費は大幅な減少から持ち直している
消費者物価指数（総合）は伸び率横ばい

消費財小売総額（名目、前年比）

（％）



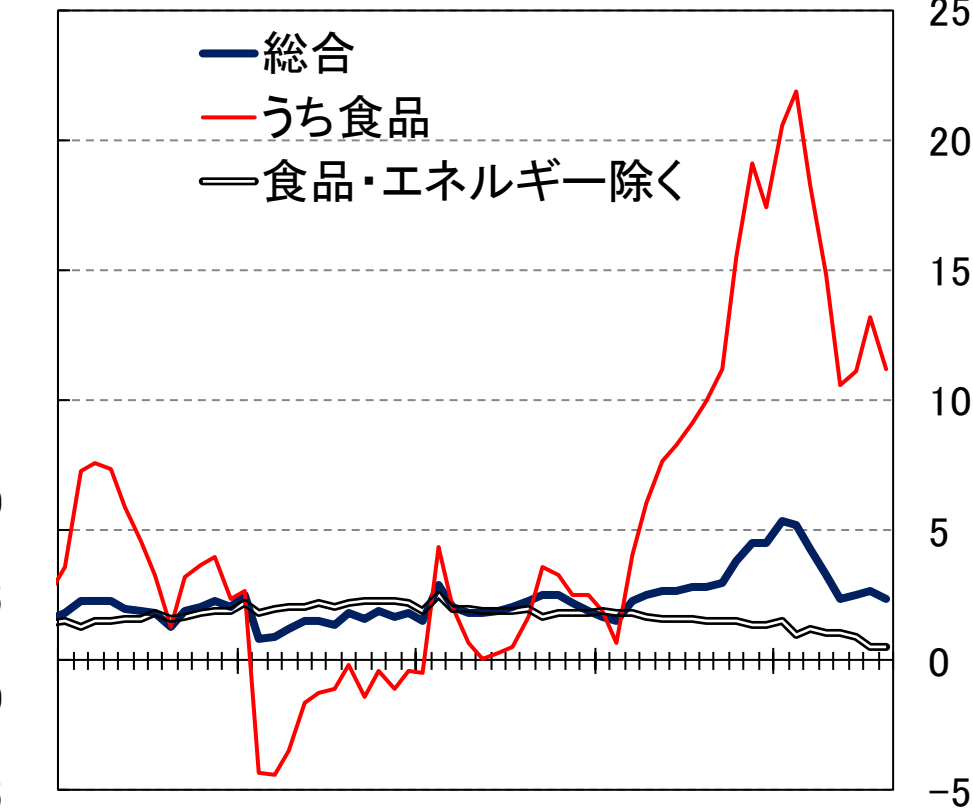
16/01 17/01 18/01 19/01 20/01 (年/月)

(注) 1、2月は単月計数未公表につき
1-2月累計前年比を記載。

(資料) Bloomberg、中国国家統計局

消費者物価指数（前年比）

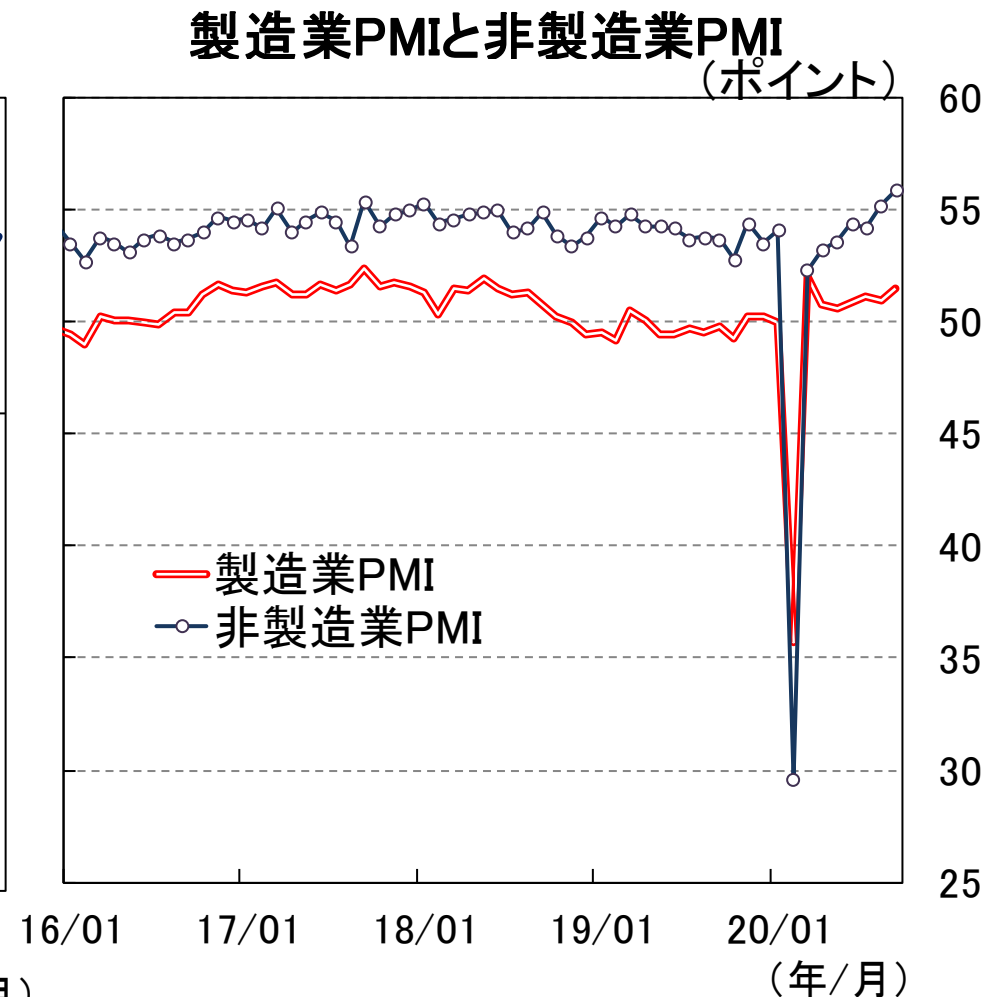
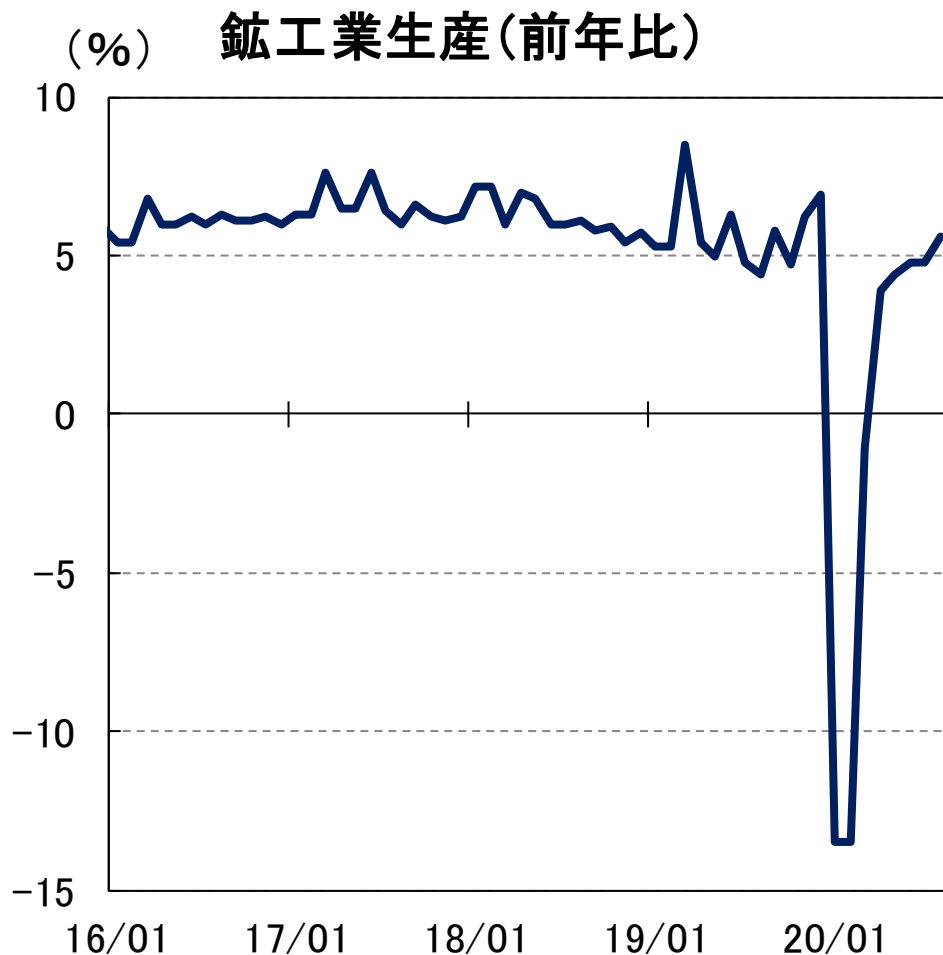
（％）



16/01 17/01 18/01 19/01 20/01 (年/月)

(資料) Bloomberg、中国国家統計局

鉱工業生産は持ち直している
景況感は回復基調にある



(注) 鉱工業生産の毎年1月、2月とも単月数値は (年/月)

未公表のため、1-2月累計値の前年比を記載。

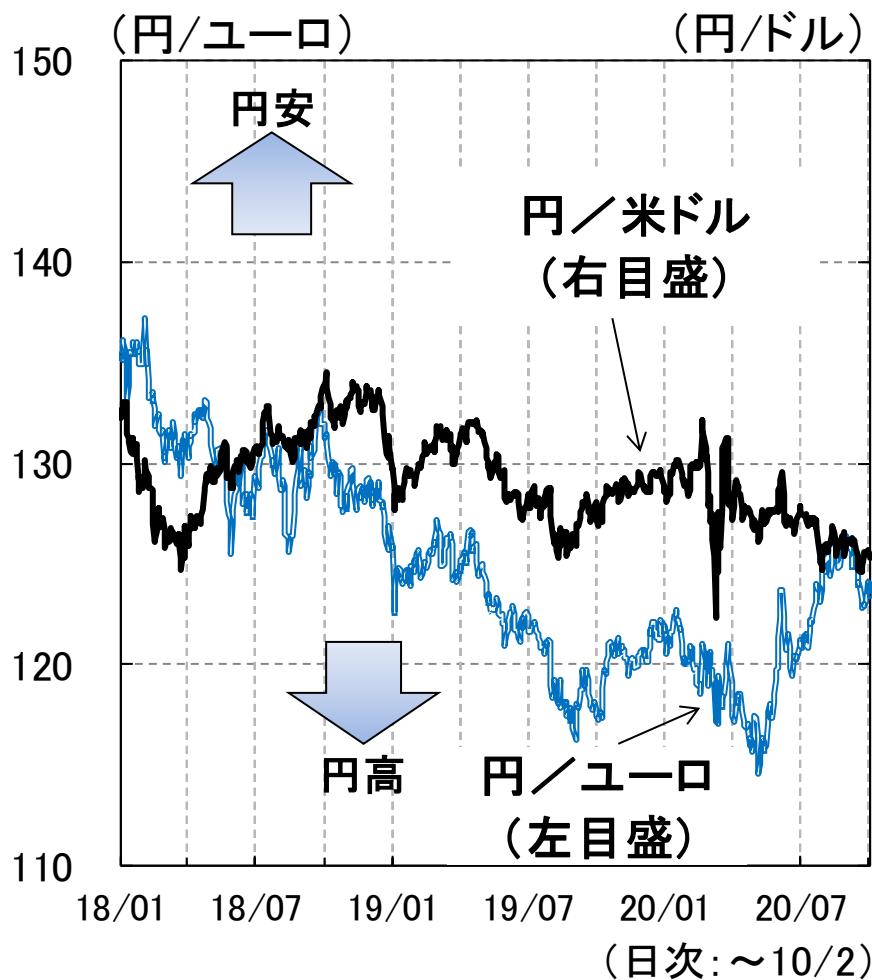
(資料) Bloomberg、中国国家统计局

(資料) Bloomberg、中国国家统计局

過去に掲載した鉱工業生産(前年比)の一部に、誤りが判明したため訂正しました。詳細は17頁をご覧ください。

欧州を中心に、世界的に感染症第二波の懸念が広がったことで、ユーロ安進行・株価下落基調がみられる。

為替相場の推移



(資料) Bloomberg

日米株価の推移

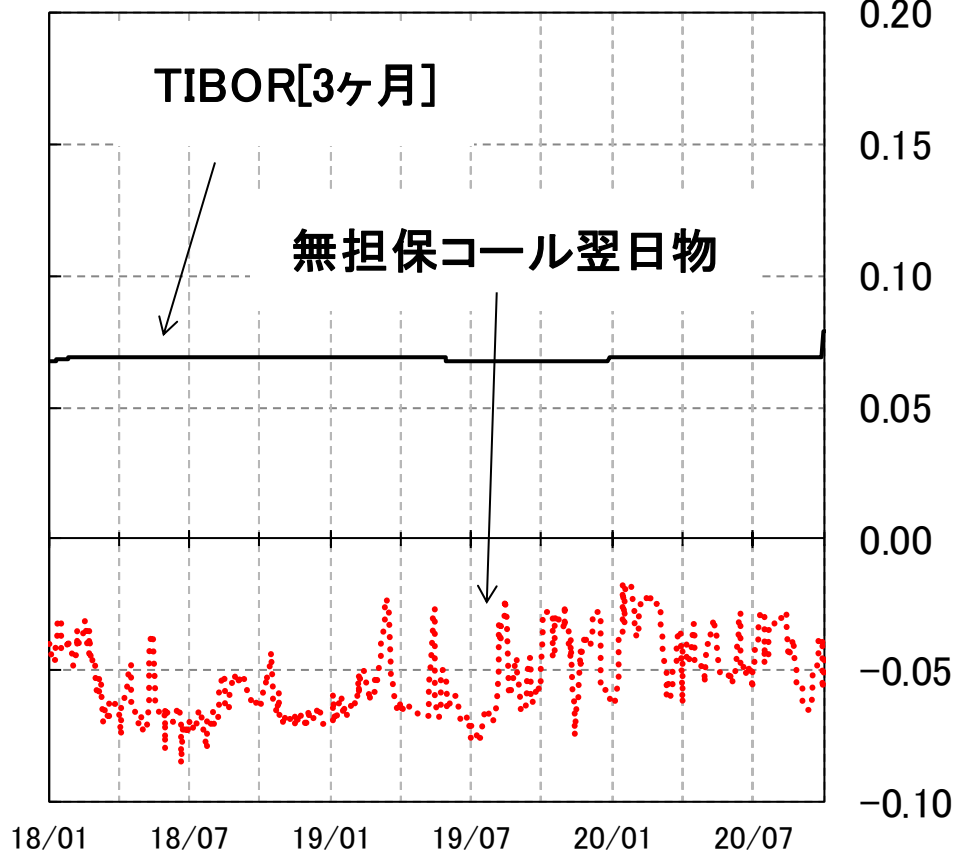


(資料) Bloomberg

長期金利は横ばい。各国中銀の金融緩和が続く中、日銀も9月に政策金利の誘導目標据え置きを決定

国内短期金利の推移

(%)

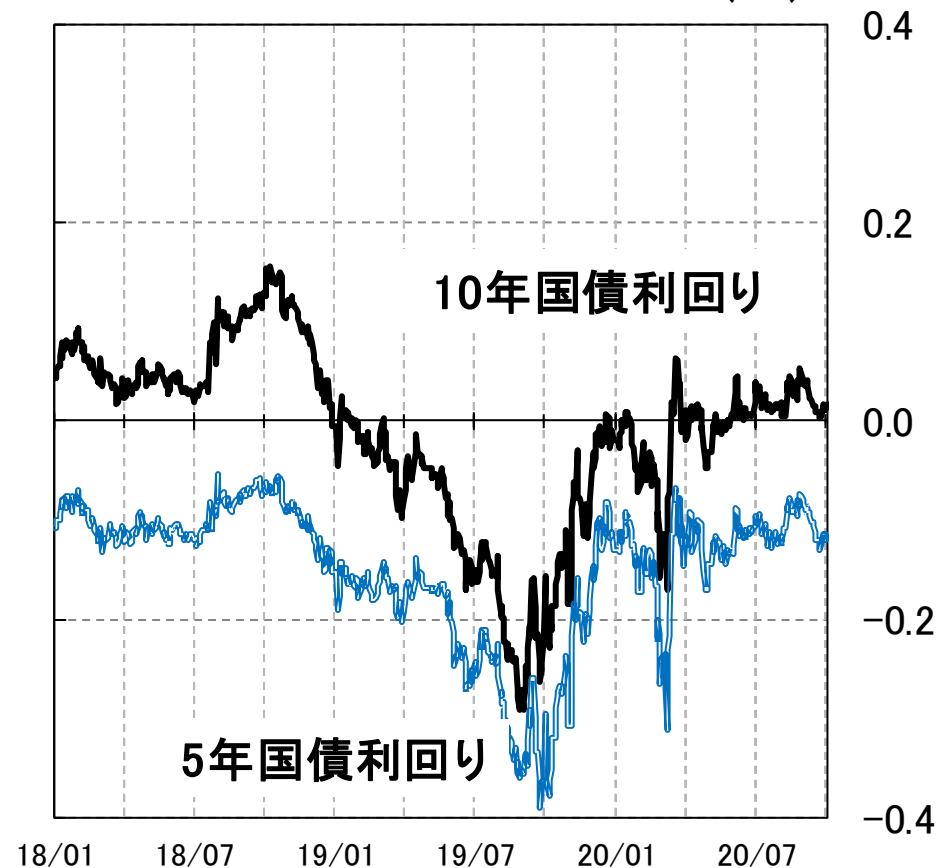


(日次: ~10/2)

(資料) Bloomberg

国内長期金利の推移

(%)

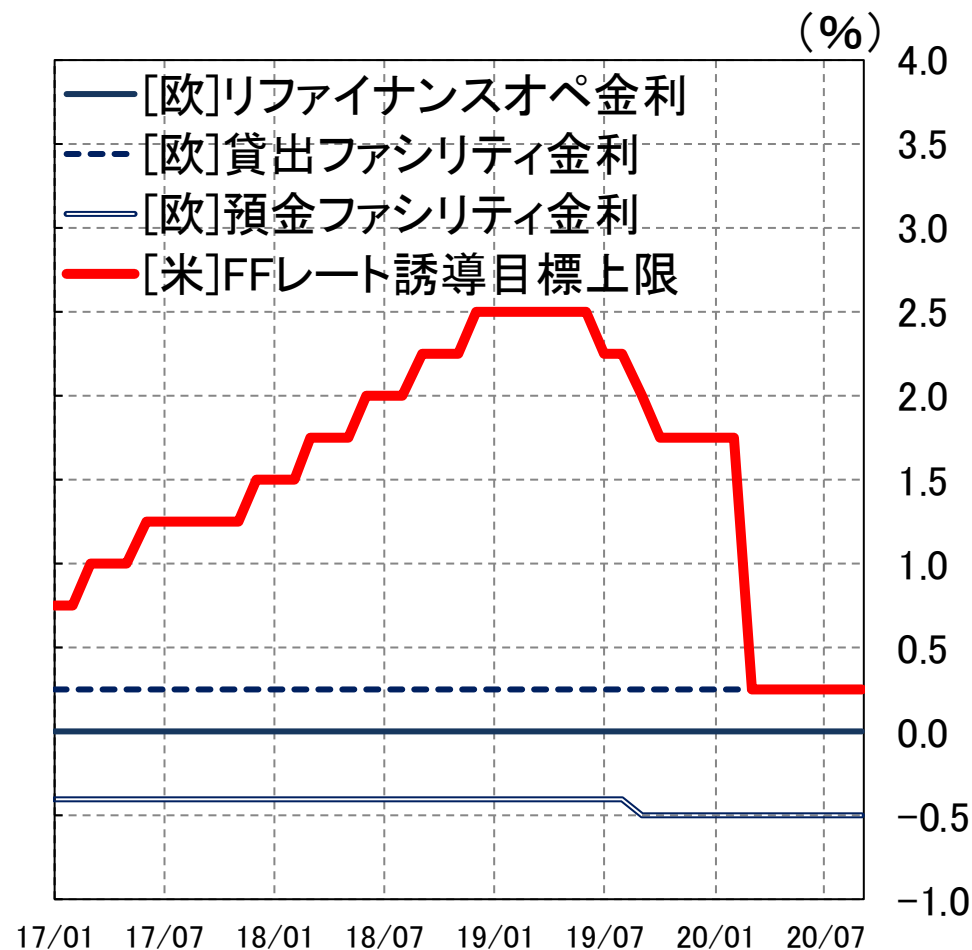


(資料) Bloomberg

(日次: ~10/2)

欧米ともに金融緩和を継続。原油価格は、感染症の再拡大に伴うエネルギー需要鈍化の見方が広まり、頭打ち感が強まっている。

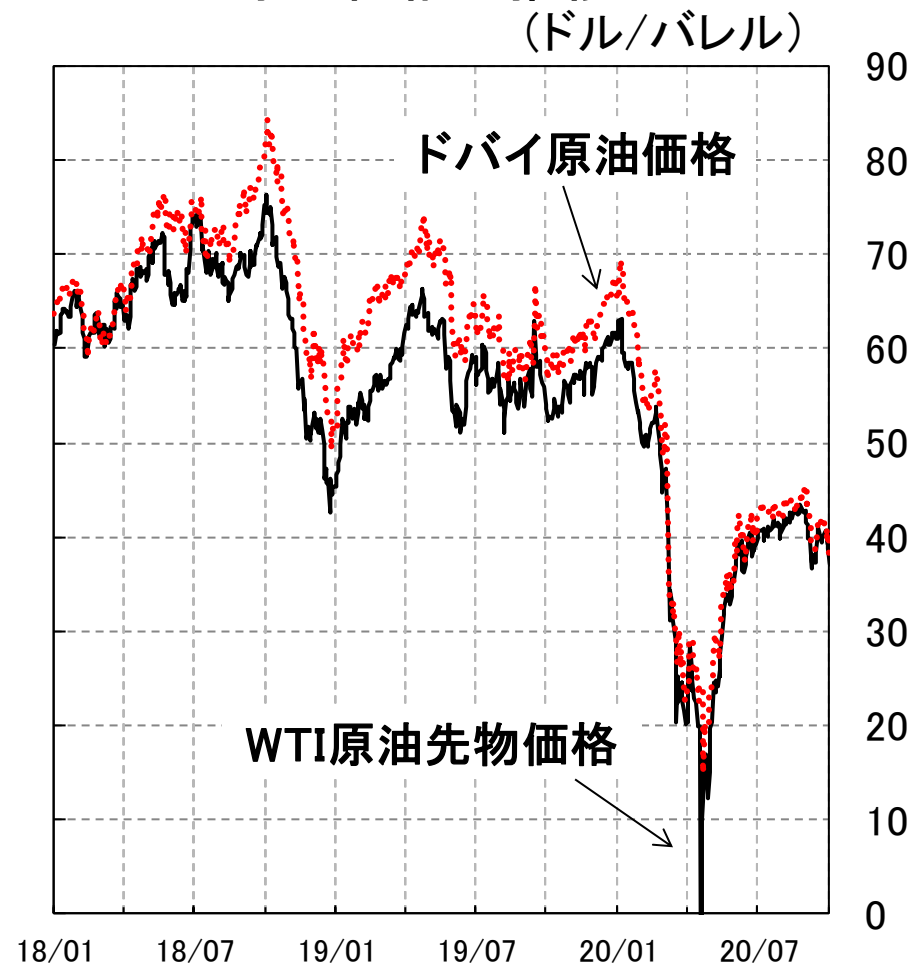
欧米政策金利の推移



(資料) Bloomberg

(月次: ~20年9月)

原油価格の推移



(資料) Bloomberg

(日次: ~10/2)

過去に掲載した欧米政策金利の推移の一部に、誤りが判明したため訂正しました。詳細は17頁をご覧ください。

掲示資料の訂正とお詫びについて

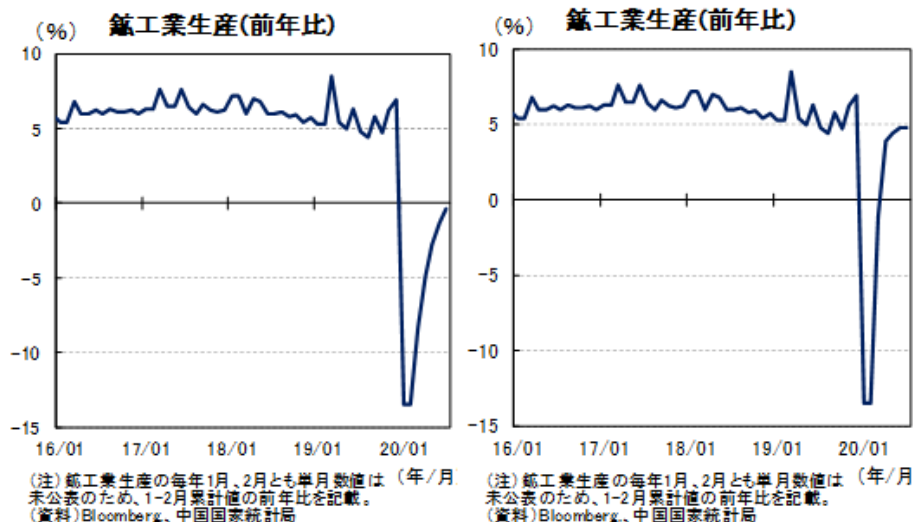
以下の資料について誤りが判明しました。

ここにお詫び申し上げますとともに、以下の通り訂正をお知らせいたします。

訂正箇所(1): 中国② 生産・景況感

(誤)

(正)

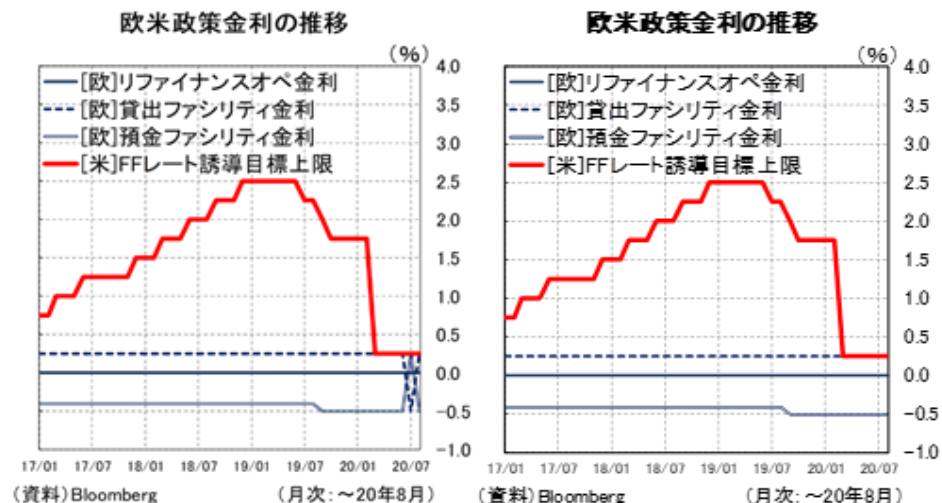


2020年3月～7月の「中国鉱工業生産(前年比)」につき、単月値ではなく、年初来累計値の前年比を表記していました。

訂正箇所(2): 金融環境 欧米政策金利

(誤)

(正)



2020年7月の「[欧]貸出ファシリティ金利」と「[欧]預金ファシリティ金利」の数値に誤りがありました。